

授 業 科目名	【 G 】	日本法制史Ⅱ	区 分		開講年次	【 G 】 3	単位数	【 G 】 2
	【 H 】	日本法制史Ⅱ	選 択			【 H 】 3		【 H 】 2
科目区分	専門科目：【 G・H 】教科及び教科の指導法に関する科目（中社・地歴・－・－）							
授業形態	対面授業							
担当形態	単 独	【 G 】 教員の免許状取得のための（中社選択・地歴必修・－・－） 科目						科目
		【 H 】 教員の免許状取得のための（中社選択・地歴必修・－・－） 科目						
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項：「日本史・外国史」（中一種免社会）							
	「日本史」（高一種免地歴）							
サブ タイトル	近世・近代日本の法制度とそれを取りまく社会					担当者	田中 秀典	
授業概要	【概要】	本講義では、近世から近代にかけての法をめぐる歴史的事象の理解を目指し、そこから日本における法の性格について考察する。法が生まれる社会的な文脈を把握することを通して、法の普遍的な性格とその時代における特殊性を考えたい。また、歴史的なアプローチは現行法を相対化する重要な視点になる。私たちが学び用いる、現在に至る法の系譜を検討することを通して、現行法を理解する基盤を形成するとともに、それに対する相対的な思考の獲得も目標として授業を展開する。						
	【到達目標】	日本の近世・近代における法と社会について学ぶことにより、①法の役割とその変遷、②法や制度に関する歴史的な知識、③現行法への客観的な視点、3つの点の理解・獲得を目指す。						
履修条件	特になし。							
アクティブ ラーニングの 方法	【－】	事前学習型	【－】	反転授業	【－】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【－】	双方向アンケート	【－】	グループワーク	【○】	対話・議論型授業	【－】	ロールプレイ
	【－】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【－】	PBL	【－】	その他
ディプロマ・ ポリシーとの 関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①		◎ （よく当てはまる）					
	DP(ディプロマ・ポリシー)②		－ （当てはまらない）					
	DP(ディプロマ・ポリシー)③		－ （当てはまらない）					
	DP(ディプロマ・ポリシー)④		－ （当てはまらない）					
他科目との 関連性	日本法制史Ⅰ、歴史学概論、日本史概論を履修していることが望ましい。							
教科書	必要に応じて資料を配布する。							
参考書	高等学校で使用した日本史の資料集。それ以外は授業内で適宜紹介する。							
評価方法	毎回の授業内での小レポート等【30%】・期末レポート【70%】で評価する。							
フィードバック 方法	提出された小レポート等に対してコメントする。							
評価基準	下記授業単元の内容について、法に関する歴史的知識を身につけその意味をよく理解するとともに、現行法への相対的な視点を獲得して日本法制史を学ぶ意義を理解し、それを適切に表現できた者にはその程度に応じて「S」または「A」評価とする。理解や表現に不適切な点のある者にはその程度に応じて「B」または「C」とし、理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。レポート未提出など、評価不能の場合は「F」とする。							

授 業	【 G 】	日本法制史Ⅱ	区 分	開講年次	【 G 】 3	単位数	【 G 】 2
科目名	【 H 】	日本法制史Ⅱ	選 択		【 H 】 3		【 H 】 2
授業回数	授業内容						
1	法学における歴史的アプローチの意義 ―近世・近代の法から						
	予習： 近世から近代において関心のある法的事象ピックアップする。(2時間) 復習： 現在の法に対する歴史的アプローチの方法と意義について考える。(2時間)						
2	天下統一と江戸幕府の諸制度						
	予習： 江戸幕府成立の経緯と幕藩体制について調べる。(2時間) 復習： 鎌倉・室町幕府との差異について考察する。(2時間)						
3	幕府法と藩法						
	予習： 鎌倉以来の武家法の論理について整理する。(2時間) 復習： 幕藩体制下における法源の多様性について考察する。(2時間)						
4	武家諸法度にみる江戸幕府の統治方針						
	予習： 家康期から綱吉期までの大名への統制について整理する。(2時間) 復習： 各将軍の武家諸法度が果たした役割について考察する。(2時間)						
5	法秩序確立の画期としての赤穂事件						
	予習： 赤穂事件について調べる。(2時間) 復習： 武断政治から文治政治への転換について考察する。(2時間)						
6	公事方御定書の編纂と裁判						
	予習： 吉宗が実施した政策について調べる。(2時間) 復習： 江戸時代における判例法の役割について検討する。(2時間)						
7	江戸幕府の刑罰体系						
	予習： 江戸時代の刑罰の種類について整理する。(2時間) 復習： 江戸時代の刑罰がもつ意味について考察する。(2時間)						
8	江戸幕府の刑事裁判						
	予習： 江戸期における裁判の仕組みを整理する。(2時間) 復習： 吟味筋と出入筋との違いについて考察する。(2時間)						
9	江戸幕府の民事法						
	予習： 幕藩体制下の裁判管轄について整理する。(2時間) 復習： 金公事と本公事との違いについて考察する。(2時間)						
10	不平等条約の締結および改正と「万国公法」						
	予習： 幕末期の江戸幕府の外交政策について調べる。(2時間) 復習： 幕末における西洋思想・諸制度の受容について考察する。(2時間)						
11	近代国家の形成と法制度の近代化						
	予習： 明治政府成立の経緯について整理する。(2時間) 復習： 諸制度の江戸時代からの変化について考察する。(2時間)						
12	大日本帝国憲法の制定と諸制度の整備						
	予習： 明治期における太政官制について調べる。(2時間) 復習： 現行憲法と比較しながら、憲法が示す国家のあり方を考える。(2時間)						
13	諸制度の整備						
	予習： 憲法制定に伴って整備されたのはどのような制度か調べる。(2時間) 復習： 諸制度の整備が社会に与えた影響について考察する。(2時間)						
14	明治憲法体制の崩壊と諸制度の刷新						
	予習： 新憲法の制定過程について調べる。(2時間) 復習： 憲法の変化に伴う諸制度の変化の意義について考える。(2時間)						
15	近世・近代における法への歴史的理解						
	予習： 前回までに学んだ内容を整理する。(2時間) 復習： 近世・近代における法のあり方について考察する。(2時間)						
その他	レジュメや、背景となる歴史的事象に関する資料を配布して講義を進めるが、履修者は高校卒業レベルの日本史および古文・漢文の基礎的な知識を身につけていることが望ましい。「予習・復習」で示したポイントを参考にしつつ、積極的な姿勢で学んでほしい。						